

第116回役員会・第49回経営審議会 議事要録

日 時：2019年11月21日(木)10:00～11:30

会 場：大学本館 E-701 会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、片山理事、柳井理事、龍理事、田上理事、井上委員、
今川委員、岩松委員、久保委員、柏原委員、小林委員、竹島委員、松永委員
(オブザーバー) 中野監事、福田監事、中尾副学長、二宮副学長

議 案

- 1 2019年度北九州市立大学教職員の給与改定等について
- 2 第3期中期計画における主な取組み（現状と来年度の取組み）について
- 3 北九州市立大学 i-Design コミュニティカレッジ規程変更について

報 告

- 1 海外インターンシップの実施について
- 2 法人評価委員会による前年度業務実績に関する評価結果について
- 3 2019年度大学の地域貢献度調査結果について

議案1 2019年度北九州市立大学教職員の給与改定等について

<質疑応答>なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 第3期中期計画における主な取組み（現状と来年度の取組み）について

<質疑応答>

[委員]

本学は「地域」「環境」「グローバル」という柱で進めている中、KGEPを開設したが、留学派遣実績が3年前より減少している。グローバルや国際を表だって主張していない大学でも、今はいろいろな取組みがなされている。例えば、千葉大学でも全員留学をさせている。また、九州にあるAPU（立命館アジア太平洋大学）には志願者の3割は東京から来ているというデータが出ている。本学は今後、国際性についての競争力を強化する必要があると思うが、お考えや今後の取組みを教えてください。

[副学長]

今年度は、英米学科を再編し、全員単位化して海外体験をさせるようにしている。そして、卒業後企業で活躍できるグローバルリーダーを育成したいと考えている。また、他学部でも英語力が一定以上必要になるが、アドバンストコースを2年生選択で218名受講している。現在、北方キャンパス1000人くらいの2年生の内5分の1なので、今後拡充していきたい。ただ、開講時間が前期金曜1限、後期金曜4限であり、他の授業と重ならないようにしないと多くの学生が受講できないので工夫はしているが難しい。手の届きにくいケアは、留学に行った学生から、ペアラーニング等、学生相互で、留学経験を還元してもらっている。英検600点レベルのチャレンジコースも開設し、段階的に学生を育成するプログラムを構築しており、1年1学期で4名の学生がメダルを獲得した。

今後、学生に対して、1月から来年の秋開始の留学参加者の募集期間が始まるので、活動内容やキャリアプランも含めて周知の方法をもっと考える。今後は日本で働いても、企業の組織の中で外国人の上司であったり、部下がいたりする可能性は高くなるので、学生のうちにそういった経験を積ませたいと考えている。

[委員]

研修について記載がありますが、教員に対するFD、職員に対するSDと分けてあるが、2017年4月からすべて広義でSDになったはずだと思うのですが…

[理事]

FD研修においても職員の受講も可能にしているし、教員と事務職員等の連携や協働が必要な内容やアクティブラーニングなどは一緒に行っている。

[委員]

FDよりSDがむしろ大事であって、きちんと記載しないと設置基準法違反になると困っていると思うので、SDをきちんと記載していただきたい。

[理事]

SD研修も、研修計画を策定し、リスクマネジメント研修等、計画通り行っている。

[学長]

学内では、FD、SDと分かりやすいので使い分けているが、広い意味でSDを浸透させていかなければならないと思っている。今までの実績も踏まえ、今後の計画や記載の仕方については検討していく。

[委員]

2017年秋に第3期中期計画が作られ、その翌年に改正されたので、記載がないのだと思う。次は記載していないと設置基準違反になるかもしれないので申し上げた。

それから、意見であるが、事務職員の適正配置で市派遣職員からプロパー職員への転換とあるが、それが目的ではなく、優秀な職員を確保する手段であることをお伝えしたい。市立大学は、市役所と交渉もあるし太いパイプが必要なので市派遣職員も必要だ。また市職員の方は、公務員試験を勝ち抜いてきた優秀な人たちだ。プロパーが学内のことに精通しているかもしれないが、市職員はもっと広い視野で大きなマネジメント能力があると感じる。

[委員]

今、働き方改革と言われており、私は2つ大事だと感じる。1つ目が個人の発想力、2つ目が他者との連携で、企業も大学や地域などと連携する必要がある。特に大学には、学生の発想力を活かし、産学官との連携を進めていただきたいと思っている。地域企業とのワークショップなども素晴らしいと思うし、企業の課題解決に学生の意見を企業ももらえ、学生にとっても良い経験になると思う。企業側から、何かを相談する時に、どこに相談したらよいかかわからない。

[理事]

研究分野の話であれば、企業からの技術相談センターがあり、年間160数件ご相談がある。

[委員]

i-Designも地元の方へ学びの機会を提供し、地域創生学群もあり、地域貢献や地域連携が大切だと思うし、本学は行っているが、今高校でもそういった地域科目を学んでいて、その科目との連動は考えられているのか、地域創生学群ができた際はパイオニア的存在でオリジナリティがあったと思うが最近では地域も注目され始め、同じような取り組みも耳にする。本学の地域との連携は今どんな感じか。

[副理事]

地域活動は積極的に行っており、地域創生学群はもちろん、地域共生教育センター421Lab.でも多くの活動を行っている。また、高校での授業の連動も、新カリキュラムになり、例えば文学部の授業でも「地域と文化」などを開講している。個々の科目特性もあり、なかなか難しい点もあるが、次のカリキュラムの際、将来的に検討していく。

[理事]

今、地域活動が岐路に立たされていると思っている。ボランティアなのか、教育か、学生の地域活動をサポートするにあたって、きちんと大学が学生を評価する仕組みとか評価基準がいる。例えばオリンピックなどもそうである。自主的な活動なのか、きちんと単位化や配慮を大学がするのか等、転換に迫られていると思う。

[理事長]

若者が421Lab.等で様々な活動を頑張ってくれるのは良いことだが、一大学だけでなく、他大学、例えば北九州10大学などで活動を進めていけたらよいのではないかと産業界からもそういう声があるのでお願いしたい。

[委員]

公立大学が地域に根差した大学として役割を担ってきたが、いまや国立大学でも86大学中53大学が地域の大学だと答えている。大阪市立大学と大阪府立大学も統合して無償化も打ち上げているし、首都大学も都立大学に改名する、そういった状況であるが、九州大学は世界の大学と言っているのだから、北九州市立大学は地域の大学として生きていけるのではないかと思うので、そこに力を入れてはどうか。

[副理事長]

今は折尾駅周辺が再開発を進めていて、北九州市でも地域プラットフォームで勉強会等が行われている。九州共立大学が中心となっているようだ。

[委員]

地域の文化振興への寄与とありますが、学生ボランティアと一緒に活動していても初めは意欲的に取り組んでいるが、代替わりした際にどんどん形骸化していく。また、学生もアルバイト等で色々と忙しく、人も集まらなくなる。そして、学生も指導の先生も文化に対して理解が十分ではない、もう少し熱い気持ちで文化を学んでほしい。文化施設側からいうと、ボランティア以前に多くの学生や若者に来館してほしい。

[副理事長]

地域創生学群でも同様の問題があつて、初めにプロジェクトを始める学生はパイオニア的な存在でやりがいもあるが、出来上がってしまうと、その後の学生は出来上がったルールにのることになり、意欲や思い入れも下がる。また、学生に是非、文化施設に来館してほしいと思つているが、授業で強制的に行かせるのも違うので、今、展示に工夫をして本館の1階に目を触れるよう掲示等をしている。

【議長】 計画の軽重を考えながら、そしてSDについてはきちんと書き込むということで、提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】 異議なし

議案3 北九州市立大学 i-Design コミュニティカレッジ規程変更について

<質疑応答>なし

【議長】 提案のとおり、承認してよろしいか。

【委員】 異議なし

報告1 海外インターンシップの実施について

<質疑応答>

[委員]

海外インターンシップに参加した学生の意見をヒアリングして、次年度のプログラムを見直したりされているようだが、学生の声を報告いただいたが、企業側の声はどのようなものがあるのか。

[副学長]

担当教員や職員が全企業ではないが、実際に海外企業に見学や挨拶にも行っている。インターンシップでは、インターンシップを通して学んだことや意見等のプレゼンテーションを最後に行うことが多いが、企業からは価値のある学生の意見が反映されたプレゼンだったとお褒めの言葉をいただくこともあれば、もう少し参加にあたって企業や業界の勉強をしてきてほしいと厳しい声をいただくこともある。また、本学で参加学生の報告会も行っていて、その発表を見に来てくださる企業の方もいて、その際にもご意見を伺って、企業の声も把握している。学生、企業双方の声を聞き、プログラムの改善に努めている。

[委員]

企業の声は、プログラムの見直しだけでなく、学生にフィードバックしているのか。

[副学長]

学生に伝えている。

報告2 法人評価委員会による前年度業務実績に関する評価結果について

<質疑応答>

議案2とともに報告があり、議案2ですべてのご意見を伺った。

報告3 2019年度大学の地域貢献度調査結果について

<質疑応答>

[委員]

この地域貢献度ランキングは誰が評価しているのか。地域に詳しい方とかなのか。

[理事]

例えば、留学生が何人であれば1点、何人以上であれば2点などと点数の基準が決まっていて、機械的に点数化されランキングになっている。

[理事]

本学が留学に力を入れているが、留学するよう学生に誘導しているが、留学した学生が地元に残らないのではないのか。本学は地元就職も力を入れているが、留学した学生が地元就職したか等の追跡調査が必要だと思う。APUも優秀な人材が出ていくので、地元企業や自治体からすると地域貢献になっているのかは難しいと思うが、追跡調査は必要だと思う。

[理事]

留学した学生だけでなく、在学時の成績や活動と卒業後の進路を調査していく必要があると思う。

[理事]

今、IR室を設置して、新しい学務システムを構築しているところなので、入学から卒業後の進路まできちんと追跡調査ができるようになると思う。

[委員]

今、大学が偏差値だけでなく、いろいろな指標でみられるようになったので、このランキングも気にされているのだと思うが、ランキングもたくさんあるのでうまく振り回されずに付き合い合っていく必要があると思う。ランキングに対して、2つの付き合い方があって、1つ目はとにかく順位をあげる、2つ目は力を入れている柱としている項目を、客観的にどのような評価なのか、外からの見え方を確認する指標にする、本学は後者でよいのではないかと思う。

[副理事長]

ランキングとは距離を置いてみていきたいと思っている。今回も「働く場」という項目が地域貢献に関係あるのか、また「SDGs」にしてもそういった内容を扱っている授業科目はあるが授業名にSDGsが入っていないというだけで減点、数で点数化されている部分は、割合ではないので大学の規模で不平等があるし、地元就職も看護系学部などは高いといったことがある。きちんとどのくらいの方が分かってみていただけるか心配である。